

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 2 報
千葉県農林水産部
令和 6 年 6 月 4 日

4月植えは、中干しの時期に入っています

「ふさおとめ」の幼穂形成期は6月11日頃からの見込みです

[生育概況]

5月下旬は平年よりも日照時間が少なめでした。4月20日植付けの各品種の生育遅速（葉令の進み）は平年並み～早く、茎数は平年並み～多く推移し、順調な生育をしています。また、草丈は長く、葉色は平年並み～やや濃く推移しています（表1）。一方、5月1日植付けの「コシヒカリ」は葉令、草丈、茎数共に平年並み、葉色はやや淡くなっています。

植付けが早く初期生育が順調だったほ場では、中干しを始める時期に入っていますが、還元障害がみられるほ場も多く、植付け時期、ほ場による生育差が大きい状況です。

気象庁の2週間気温予報では、今後の気温は「平年並み」と予測されていますが、ほ場によっては幼穂形成期が見込みよりずれる可能性がありますので、こまめに幼穂を確認しましょう。

表 1 品種別の生育状況（5月31日現在）

品種	植付け時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや早	長	並	やや濃
ふさこがね	4月20日	並	長	多	並
コシヒカリ	4月20日	やや早	長	やや多	やや濃
	5月1日	並	並	並	やや淡
粒すけ	4月20日	早	長	多	やや濃

※平年比は過去10か年（2014～2023年）の平均値との比較。

ただし、粒すけは過去8年（2015～2023年）のデータとの比較。

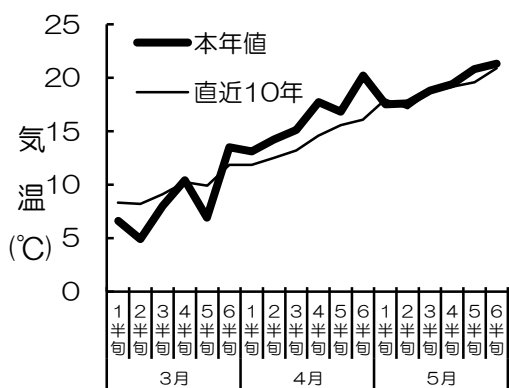


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

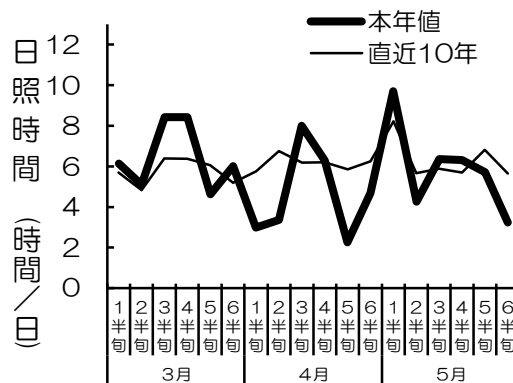


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 適期に中干しを実施しましょう

4月に植え付けたほ場では分けつが多く、中干しを開始する時期となっています。5月1日植えの「コシヒカリ」は、間もなく中干しの時期を迎えます。ほ場ごとの生育を確認し、茎数が確保されたら速やかに中干しを実施してください。

中干しは無効分けつを抑制し過繁茂を防ぐとともに、地中深く根を張らせる効果があるため、近年頻発している登熟期の高温障害の予防としても有効です。土壤水分にムラが生じやすい場合は「溝切り」を行うことでムラが解消でき中干し効果が高まります。

表2 品種別の中干し開始目標茎数

品種	植付け時期	砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)
	5月1日			
粒すけ	4月20日	472本/m ² (26本/株)	440本/m ² (24本/株)	

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。疎植の場合はこの目標に達しないことがある。

■ 穂肥の時期は幼穂長で判断

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月11日頃から、「ふさこがね」は6月12日頃から、「コシヒカリ」は6月19日頃から幼穂形成期(幼穂長1mm)となる見込みです。

幼穂が確認できたら速やかに入水するとともに、適期に穂肥を施用しましょう。「ふさおとめ」の穂肥は遅れないよう幼穂長が1mm~1cm、「ふさこがね」は幼穂長が1cmになったら施用しましょう。施肥量は、窒素と加里を10a当たり成分量で各3kg(ただし、房総南部の粘質土は「ふさおとめ」が1~2kg、「ふさこがね」が2~3kg)が目安です。

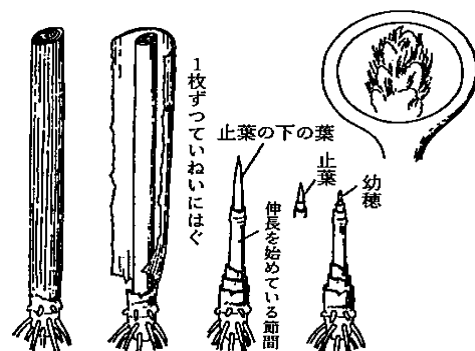


図3 幼穂の確認方法

表3 品種別の幼穂形成期の予測日

品種	植付け時期	幼穂形成期予測日(月日)			
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月15日~	6月13日~	6月11日~	6月11日~
ふさこがね	4月20日	6月17日~	6月14日~	6月12日~	6月12日~
コシヒカリ	4月20日	6月24日~	6月22日~	6月19日~	6月19日~

※ 生育ステージ予測システム(令和4年度千葉県試験研究成果普及情報)を基に予測

■病害虫・雑草防除

○いもち病発生に注意

草丈が長く葉色がやや濃い生育をしている品種が多いです。今後、低温で降雨の日が続くと、いもち病の発生が多くなると予想されます。特に、昨年いもち病の発生があったほ場や、風通しの悪いほ場では注意が必要です。

補植用の置き苗は、早めに処分し、感染源を減らしましょう。

○イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。



写真1 イネばか苗病

○畦畔から侵入する「ほふく性雑草」を防除します

畦畔からのイネ科ほふく性雑草（キシウスズメノヒエ、アシカキ等）やイボクサが本田に侵入する時期です。中干しを始めると茎の節から発生した根が田面に張るため、除去が難しくなります。中干しと併せて取り除きましょう。

◆ナガエツルノゲイトウ（草刈り時の拡散防止）

特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」の発生地域が拡大しています。茎断片でも容易に芽を出し定着するため、草刈りにより個体数を増やす場合があります。

また、草刈り時に茎断片が水路に落下すると水系を通じて拡散する恐れがあります。

畦畔は「ラウンドアップマックスロード」「ロイヤント乳剤」「ザクサ液剤」等の除草剤を使用し防除します。

詳しくは千葉県農林水産技術会議発行資料を参照して下さい。
右QRコード



写真2 白い花が咲く



写真3 畦畔から本田に侵入する様子

■還元障害（ガス沸き）の対策

昨年の台風によるワラの堆積と入水後の気温が高かったため、還元障害が発生し分けつが抑制されているほ場があります。速やかに落水し土壌中のガスを抜き、根の活力を高めましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月18日に発行予定です。